

おぼえよう 季語

中学受験のために知っておきたい季語を集めています。

俳句では季節を表すことは(季語)を必ず使うことが約束になっています。季語は春夏秋冬と新年に分けられています。が、むかしの暦こよみで分類されているため、いまの季節感とは少しずれるところがあります。

春

すみれ草 蛙かわず 蛙かえる 藤の花 なすな花 畑打ち 春の海 菜の花 雪解け
雀の子 若あゆ 椿つばき 遠足 桜草 雪残る 卒業 初つばめ 桜貝さくらい

眼にあてて海が透すくなり桜貝 松本たかし

赤い椿白い椿と落ちにけり 河東碧梧桐かわひがしへきごとう

夏

せみ 五月雨さみだれ 六月 牡丹ぼたん はえ 大ほたる 金魚 のぼり こがねむし
氷水こおりみず プール 万緑ばんりよく タ立ち 花火 甲虫かがとむし

万緑の中や吾子あごの齒生はえそむ 中村草田男なかむらくさたお

ひっぱれる糸まつすくや甲虫 高野素十たかのすじゅう

秋

秋の暮 名月 朝顔 柿 赤とんぼ 七夕たなばた 天の川 桐一葉きりひとば いわし雲 きつつき
露 ばった きりぎりす さんま

いわし雲大いなる瀬をさかのぼる

飯田蛇笏

桐一葉日当たりながら落ちにけり

高浜虚子

冬

枯野

初しぐれ

雪

冬木立

大根

冬蜂

木枯

スケート

咳

寄せ鍋

除夜の

鐘

いくたびも雪の深さを尋ねけり

正岡子規

スケートの紐むすぶ間もはやりつつ

山口誓子

新年

手まり

羽子

初湯

書初

大空に羽子の白妙とどまれり

高浜虚子

書初やうるしのごとき大硯

杉田久女